

『この本は面白い！』 part 2

北海道帯広三条高等学校 吉田亮介

これらの本は日ごろの授業で盛り込むことができるという視点で選んでいます。また、数学好きの生徒にも薦めることができると思います。

『なぜ勉強するのか？』（鈴木光司 著 ソフトバンク新書）



初めて『リング』を見たときの恐怖感は忘れられない。トイレに行くのも怖いくらいで……。他には、『らせん』『ループ』などホラーブームを生んだ作家の教育論。これが面白い。様々な事象を例に挙げ、勉強することの必要性を説いていく。『「理解力」「想像力」「表現力」この3つの能力を向上するために勉強をするのである、仕事で要求される能力もこの3つに収束する。』作者が説く勉強の必要性はインパクトがある。

『計算しない数学、計算する数学 ~ホントの数学は自分の中にある』

(根上 生也/桜井 進 著 技術評論社)

著者の根上先生は横浜国立大学の教授、桜井先生は言わずと知れた「サイエンスナビゲーター」でとして有名。数年前の高教研でも講演をされた。

多くの作品があるが「雪月花の数学」は今でも私の愛読書。

今回の作品は二人の先生が自由に数学について語り合う。全て会話調でリラックスした雰囲気が始流れているが、この会話がとても面白い！お互いの数学観が随所で垣間見れる。



『大学入試合格力を鍛える数学勉強法』（佐々木 隆宏 著 中経出版）



著者の佐々木先生は代々木ゼミナールの講師として有名。参考書も多数書かれているが、どの本も完成度が高く、かつわかりやすいものばかり。(最近では微積、線形代数の本も出版された。)

その佐々木先生が、数学の学習法について書いた本がこれ。受験生のみならず、高1段階、高2段階での学習法など高校生全般を対象に書いている。

また、現役生の部活との両立や分野別攻略法など、本当に盛りだくさんな内容。私自身も大変参考になった。なるほど、予備校ではこのような指導がなされているのか、と。

そこには予備校生と向かいあってきた佐々木先生の現実的な視点がある。

『新体系・高校数学の教科書 上・下』（芳沢 光雄 著 講談社ブルーバックス）

『出題者心理から見た入試数学』を以前にこの会で紹介させていただいたが、今回の芳沢先生の新作は何と教科書。上下巻にわたって高校数学が展開。この本の面白いところは何ととっても、問題の選び方にあると思う。堅い枠にとらわれず、のびのびとしながらそれでいてポイントは外さないその構成の手法は見事。数学好きの高校生や教師にもぜひ読んでほしい一冊。



『「3」の発想 ～数学教育に欠けているもの～』（芳沢 光雄 著 新潮社）



上に引き続き芳沢先生の2冊目。今回は「3」に着目して様々なことを書かれている。

ティッシュペーパーとドミノ倒し、ケーキの公平な分配問題、「平均」の理解の仕方、じゃんけん、三角形の学習の必要性、三段論法、ジニ係数、数学教育に生かす「三慧」の発想など、興味深いものばかり。

精力的に数学教育に提言される先生の姿勢に頭が下がります。

『かぎもと流 高校数学目からウロコの相談塾』（鍵本 聡 著 数研出版）

『高校数学とっておき勉強法』や『計算力を強くする』などの作品で知られる鍵本先生の作品。

Q&A方式で、生徒からの質問に鍵本先生が一つ一つ回答を与えていく。この生徒からの質問に自分だったらどう答えるかな・・なんてことを考えながら読んでいくと、すごく面白い。

まさに相談塾、質問項目も盛りだくさん。他書『16歳の教科書』でも講師として数学を担当されていた。こちらは本校1年次の宿泊研修で使用し生徒にも読ませた一冊。



『秋山仁のこんなところにも数学が！』



(秋山 仁 松永 清子 著 扶桑社)

秋山先生の作品で最近読んだものの一つで授業で使えるネタがたくさんある。読み切りで1テーマにつき2～3ページなので、好きなところからサクサク読める。

爆笑問題から秋山先生に寄せられた確率の問題なんかは面白かった。サッカーゴールのネットが6角形になった話（私は初めて知りました。実際に新聞のスポーツ欄の写真でネットの形を見たときはマジで感動した！）など楽しさ満開の秋山ワールドです。

ぜひご一読を。